



プロジェクト名称

## いくべっ！福島支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

東日本大震災から約 5 年が経過し、少しずつ復興の目処が立ってきているが、まだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の作業が難しい。また福島県の農家の方々は放射線量を下げるために様々な努力や工夫を行っているが世間には広く知られていないのが現状である。このことが、市場に出回っている福島産の食品は安全であるが、一部の消費者に嫌悪されてしまう原因の一つとなっている。

そこで私たちはそのことにスポットを当てて、消費者に正しい情報を発信していき、消費者と生産者の橋渡しを行っている。具体的には様々なイベントへの参加、及び福島産のものを販売しながらの呼びかけや、自分たちで企画した福島ツアーを実施するなどしている。

また、震災の記憶の風化防止ということも目的の一つとして活動を行っている。被災地にはまだ避難生活を余儀なくされている方や、支援の手を必要としている方が沢山いるが、震災から月日が経つにつれ日常的に震災に関するニュースを聞くことが少なくなってきた。そこで講演会や展示会を開催し、一般の方に再度震災を考えてもらう機会を提供している。そして、「福島は震災のあった場所」というイメージを払拭出来るように、「福島の魅力や福島の正確な現状」などを発信するような活動を行っている。

活動状況報告 & 活動写真など 活動期間：2016 年 1 月 1 日 ～ 3 月 31 日

○福島視察 2016 年 2 月 17 日

今年度での活動をもって「いくべっ！福島支援プロジェクト」を終了することになったため、今までお世話になった現地の方々へのお礼の挨拶を目的として、久ノ浜地域と勿来地域へと現地視察に向かった。

久ノ浜地域には過去 2 回訪問し、地元の方に話を伺い現状を学んできた。ここで得た情報は、2014 年と 2015 年の芝浦祭の展示会で発信した。久ノ浜復興の現場で活躍し、語り部を務める佐藤トミ子さんと半年ぶりに再会し、様々な話をうかがった。防災センターが完成しオープン間近であったり、海岸沿い地域の整備工事がかなり進んでいたり、まちが変化している様がよくわかった。地域の人全員が知り合いとってしまうほどの強い地域力を持つ久ノ浜は、小さなまちではあるが大きなエネルギーを持っていると感じた。



勿来地域は、学生プロジェクト「笑顔のまち なこそ復興プロジェクト」の紹介で関わった地元 NPO 法人「なこそ復興プロジェクト」の活動の場である。「なこそ復興プロジェクト」の方々には福島ツアーでのワークショップで協力していただき、大変お世話になった。今回は、防災緑地工事の進み具合や新プロジェクトについてうかがった。防災緑地などの設備が整うことも重要ではあるが、それらがどのように利用されていくのかを見越して計画することが重要である、とおっしゃっていたのが印象的であった。

どちらの地域でも、専門家の協力を得ながら住民が主役となってまちの復興を引っばっている。それらの地域の方と交流できたこと、また、復興の過程を実際みられたことは、私たちの活動に大きな影響をもたらしたため、今回の視察でお世話になった方に感謝を伝えることができ、プロジェクトの良い締めくくりとなった。



久ノ浜の防災センター



勿来にて

## 今後の活動計画、目標、意気込みなど

活動メンバー不足などの理由により、今年度でプロジェクトを終了することになった。復興は具体的なゴールなどなく、関東の大学生として何が出来るか、何をすべきか、と苦戦することもあったが、5年間の活動を通して僅かながらも福島復興の力になれたのではないかと思う。関東の学生である私たちがこのような活動ができたのは、快く協力してくださった方々がいたからである。本プロジェクトに関わってくださったすべての方に感謝を伝えたい。

ありがとうございました。